

「平和」について私が考えたこと

岐阜市立長森中学校 3年

鶴田 さくら

私は、修学旅行から学んだ「これからの平和」についての自分の考えや未来への希望を提案します。

長森中学校では、修学旅行で広島を訪れます。2年生の3学期から事前学習として、戦争や平和について学びます。3年生になってからは、『はだしのゲン』と特攻隊の動画を視聴しました。

「はだしのゲン」で一番印象に残っているのは、主人公のゲンのお父さん、お姉ちゃん、弟が原爆で崩れた家から逃げられなくなる悲惨な場面です。家族を助け出せず、見捨てるしかありませんでした。目の前にいて助けられそうだったのに助けることができないとなると、本当に辛いことだと思いました。また、助かった人たちも、助けられなかったという思いや自分たちだけ助かってしまったという思いを一生抱えたまま生きていくことになります。日本人として、戦争によって目の前で家族を失う悲しさや苦しさを決して忘れてはならないと感じました。

特攻隊というのは、爆弾を積んだ軍用機などで敵の艦船に直接体当たりする戦法です。動画では、小さな飛行機に乗ってアメリカの大きな飛行機や軍艦に体当たりしていました。この特攻隊により、約6000人の人が亡くなったそうです。これが本当に日本であり、たくさんの人が命を失ったのかと思うと怖くてたまりません。この飛行機には爆弾と片道分の燃料しか積んでありません。最初から死ぬ前提で行くということです。私だったら逃げ出したいくなる気持ちになります。それに、この戦法は人が道具のように扱われているとも思いました。特攻隊員のほとんどは20歳前後の若い青年でした。まだまだこれからの人生は長く、やりたいこともたくさんあったはずなのに、とても悲しく、悔しい思いがあったのではないかと想像します。

そんな学びをした私たちは、修学旅行では平和記念公園や平和記念資料館へ行きました。原爆が落ちる様子や、落ちた後の写真、全身火傷をした人の写真、家族への手紙・遺品など、さまざまな物を見ました。これらを見ていて、とても恐ろしく、目を背けたい場面もありました。そんな展示の中に、佐々木禎子さんが折った鶴が展示してありました。禎子さんは「生きたい」と心から強く願い、1300羽以上も折り鶴を折り続けたそうです。平和記念公園の禎子さんの像の下には、たくさんの折り鶴が奉納してあります。世界中の人々が平和を願って折った「世界平和」の象徴です。

私は、これらのことを通して、戦争は、数え切れないくらいたくさんの人の人生を奪い、苦しめ、恐ろしいものだと感じました。私は今、当たり前のように家族がいて、毎日美味しい食べ物を食べられていて、やりたいことができています。そして私には、行きたい高校や将来の夢があります。それを叶えるために今、たくさん勉強しています。今日を生き延びるのが精一杯だった戦時中の人からしたら、今の私はとても幸せです。しかし、今も世界ではいろいろなところで戦争が起きています。建物がボロボロに崩れたり、まともな食料がなかったりと、そのニュースを見るたびに胸が苦しくなります。人生は一度きりで、生まれてきたということだけで奇跡なのだから、命も心も守られなければいけないと思います。すべての人が幸せな人生を送れるように、戦争は決して起きてはならない、起こしてはいけないと思うのです。

私は、人と人が互いに助け合って、気遣ったり、幸せを与え合ったりすることができるのが平和な世界だと思います。その平和な世界を叶えるためには、特別な事をしなくても、日頃の会話や行動で平和への第一歩を踏み出せます。普段から困っている人を助けたり、日頃から相手の気持ちを考えて行動したりすること、そして私が一番大切だと思うことは、些細なことでも「ありがとう」と感謝の気持ちを、心を込めて素直に伝えることです。その言葉で救われる人はたくさんいると思うし、たくさんの人の行動の積み重ねで、世界は変わると思います。私はそれらのことを意識して生活し、身近な社会や毎日の暮らしを幸せにできる人になりたいです。そして、世界中の誰もが平和に暮らせる毎日となることを願います。